



地域情報紙

ほおじろ

読者参加版

この紙面の主役は読者の皆さま。ご投稿いただいた原稿を中心に、耳寄りな情報を加えてお届けしてまいります。皆さまからのご投稿をお待ちしています。

2015年2月13日

朝日新聞販売会社 (株)エヌ・アイ・エス

広報部

TEL 047-498-4838 FAX 047-498-4839 千葉県白井市根 116-32 川上ビル 202 E-mail: nis@shiroi-nis.com

ご好評をいただいている高山修一さんの新聞講座、参加者の皆さんは文章を書くことの楽しみも体験しておられます。今回ご紹介するのは、受講者の大山さんが少年時代の想いをつづつた作品。お楽しみください。

「神様の森で会ったお友達」

大山康郎 (富士)

学校さぼって神宮の森 小学三年生だった昭和二十五年当時、私は三重県宇治山田市(今の伊勢市)に住んでいた。

勉強嫌いだったので、学校に行かずに伊勢神宮の山や勾玉の形をした勾玉池をめざすことがたびたびだった。虫を捕まえたり、鯉やフナを見たりして過ごした。山の中では椎の実を集めた。

椎の実焙烙でいってポケットに入れ、おやつにした。山には柿の実もあり、たまには産みっぱなしの鶏の卵まで拾えた。

神宮の森に出かける時は、大好きな絵をかく画板と、数本のクレパスを持って行って、水辺で森や池を写生した。

ある時、散歩をしているおばさんが近寄って来て「絵が上手ね」とほめてくれた。気をよくして色々なことをおしゃべりし、学校をさぼって来たことや、写

生大会があるといいのに、といったことまで話した。なん回か会っているうちに、おばさんはとても良い友達になったのである。

はる先生は知っていた

私は、雨降りが嫌いだった。紙と竹で出来ている番傘が通学中中に破け、そのたびにお母さんに怒られるからだ。でも番傘は雨粒があたると、パラパラと大きい音がして面白かった。

足元は水に濡れてもよいゴム草履で、友達と昨日の楽しかったことなどを話しながら、傘をくるくる回し、水溜りの中をピチピチ、チャプチャプと学校に行くのだった。

ある時、二日も続けて神宮の森に行ったことがある。二日連続でさぼったあとなので学校は気まずかった。

佐野はる先生が教室に入り、「皆さんおはよう」と、いつもの

ように浅野幸男君から順に出席をとった。「大山康郎君」と呼ばれる。「はい」と返事をする。

最後の人の名前を読み、出席簿を閉じた。私は先生の視線を感じた。「大山君、昨日、一昨日と神宮の森へ行っていたね」と先生。なぜ分かったのだろう。

校長先生とお友達の笑顔

国語の授業が終わったあと、はる先生が「今から先生と一緒に校長室に行きます」と言う。

誰かに、学校を休んで神宮の森に行ったことを告げ口され、それで校長先生に怒られるのだと思った。

校長室の前まで来たら、体が熱くなり顔がほてった。「お部屋に入ったら、気をつけして『おはようございます』と言うのよ」とはる先生。

その通りに大きな声で、「おはようございます」と挨拶をして、顔を上げてビククリ。

そこに神宮の森でお友達になった優しいおばさんがいたのである。校長先生は笑顔で「大山君は絵が好きなんだね。家内から全部きましたよ」と言った。

おばさんもニコニコ顔で「学校でも写生大会をやるようになったのよ、大山君よかったね。今日からは勉強も絵も頑張るのよ」と話してくれた。その日から、学校が大好きになった。(続く)

お便りから



「ほおじろ」、楽しくよんでいます。我が家の周囲には子ども数の数がとても少なくなっています。紙面で子ども元気な写真や学校の生活などを見る温かい気持ちになります。たくさんの子どもたちの様子をお知らせください。楽しみにしています。(池の上 Sさん)



成人式の様子を知ることができてよかったです。うちの息子もあと数年で成人式なので、そのときはどうなっているかな! と思いつつ読みました。また、身近な記事を楽しみにしています。(根 Oさん)

何かと暗い話題も多い昨今ですが、ご近所には元気に、たくましく活躍する子どもたち、若者たちがいっぱい! 今後もどんどん取材し、ご紹介していきますので、お楽しみに!

文章あれこれ④

高山修一

手書きであれパソコンであれ、文章を書いていると時々「どの字を使うのだったか?」と思いつくことがある。

例えば「探す」と「捜す」。

「宝探し」「あら探し」「父の面影を探す」などは迷うことはなかったが、家出人さがしや親さがしは、はてどつち。

現役時代、そんな折りに頼りにしたのが『朝日新聞の用語と取り決め』。各新聞社、通信社にはほぼ似通った虎の巻がある。

取り決めには「家出人を捜す」「親を捜す」――が正しいとある。「捜す」は「主として見えなく



昔、鮭の遡上を見たことがありますが。とても感動しました。子どもたちも川に放流した鮭が戻ってくるのを楽しみにしながら、大事に育てていることでしょう。まさに命を育て教育ですね。素晴らしいことだと思います。(根 Sさん)



いつも身近な話題を楽しみにしています。今月号の白鳥たちの近況報告で、幼鳥が一羽死んでしまったとは悲しいです。せつかく遠い北国から頑張って清水口まで来たのに残念です。「白鳥の会」の方たち、ご苦労さまです。(清水口 Kさん)

数年後、白井の川を遡上する鮭の姿が見られたら素敵ですね。そして白鳥や冬鳥たち……亡くなった幼鳥は残念ですが、長距離の渡りに耐えてたどりついたこの清水口の越冬池で、しっかりと羽をやすめ、体力をつけてほしいですね。

なったものをさがす」場合に用いる言葉で、ほかに「犯人を捜す」「紛失物を捜す」「行方不明者を捜す」などを列挙している。「探す」方は「主として欲しいものをさがす」場合で、「獲物探し」「貸家探し」「職探し」など。広辞苑も同様の説明だ。

では、「さがし歩く」「さがし回る」はどの字がいいのか、と考えると頭が痛くなるもの、こちらは「実情に応じて使い分ける」とある。文脈に応じて使う字を決めよ、というわけだ。

「見る」「診る」「視る」「看る」や「聞く」「聴く」、「利く」効く」など似たような事例はほかにも多い。手を止めて、どの字にするか考えましょう。